

登録コード	L1220100	開講年度	2026				
担当教員	濱崎 友絵			副担当			
授業科目	芸術コミュニケーション概論Ⅰ						
英文授業名	Art Communication: IntroductionⅠ						
授業タイトル							
単位数	2	対象学生		講義期間	前期	曜日・時限	木曜・3時限
講義室	人文212講義室		遠隔授業科目		読替科目	読替科目は履修案内を確認すること	
信大コンピテンシー	非該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素			⇔	【授業の達成目標】		
	2022Lカリ, 2021Lカリ, 2020Lカリ						
	【2022年度以前加修対象】異質・多様なものを理解し、寛容かつ多角的に判断することができる受容力			⇔	・芸術表現形式の多様性や多元性を感受、共感し、自分の言葉で語るようになる。		
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ, 2023Lカリ						
	【2023年度以降加修対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。【思索力・受容力・批判力】			⇔	・芸術表現形式の多様性や多元性を感受、共感し、自分の言葉で語るようになる。		
授業で学べる「テーマ」	芸術文化						
全学横断特別教育プログラム							
授業の概要	本講義の前半から後半にかけては、西洋音楽の歴史的展開を追いながら、西洋音楽の基礎理論を学んでいく。五線譜上の音符の読み方からスタートし、音程、拍子、リズム、音階、調、和音を順に学ぶ。学生自身の目や耳、手などできる限り身体を使いながら実践的にこなしていく。授業の後半は、前半で学んだ理論を具体的な楽曲を通して学びつつ、より広い視野から「音楽」を在り様を考えていく。						
授業計画	1. イントロダクション 2. 音楽は「感情」を表すのか？ 3. 「楽音」と「騒音」－いろいろな音の世界と音名 4. 音程（1）－「完全なる調和」とは何か 5. 音程（2）－「世俗」の音程と「悪魔」の音程 6. 音階（1）－音の並びの不思議 7. 音階（2）－長音階と短音階 8. 調（1）－音楽を「設計」する 9. 調（2）－音楽に「色付け」をする 10. 感情と音楽との関係性を考える－映画音楽を例に 11. 小まとめ－西洋音楽史と音楽理論の原理 12. 和音（1）基本形を学ぶ 13. 和音（2）コードの原理 14. 西洋音楽を相対化する－トルコの音楽を例に 15. 期末テスト、総括、授業アンケート ※受講生の理解度によって、授業の展開順、内容に多少変更を加えることがある。						
成績評価の方法	不定期に課す設問への解答と提出状況（10％）および期末テスト（90％）						
成績評価の基準	授業で示した基本知識を身に付けていれば「水準にある（可）」。これを基準として、応用課題の理解度に応じて、「やや上にある（良）」、「かなり上にある（優）」、「卓越している（秀）」を判断する。						
事前事後学習の内容	極めて短期間で音楽理論の基礎を学ぶため、出席および予習復習は必須。繰り返し課題に取り組むことを求める。						
履修上の注意	疑問点は積極的に質問してほしい。 欠席すると授業内容についていけなくなる可能性があるため、十分注意してほしい。						
質問、相談への対応	メールないし来室も可。オフィスアワーは火曜日の12:40～13:20（新棟305）。事前に来室希望日時をメールで連絡してください。メールアドレス：t-hamazaki@shinshu-u.ac.jp						
教科書	とくになし。毎回レジュメを配布する。						
参考書	石桁 真礼生 他著 『楽典－理論と実習』 音楽之友社、1998年 片桐功他『はじめての音楽史』音楽之友社、2009年 上記以外は、授業の中で紹介していく。						